

＜平成28年度 ハローオリピズム事業＞

オリンピック教室

実施報告書

山梨県富士吉田市立明見中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年10月19日 (水)
- 場 所 : 山梨県富士吉田市立明見中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (30名)、3組 (29名)
- オリンピアン : 宮下 純一 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・宮下先生から自己紹介。今日はオリンピックのことを織り交ぜながら運動と座学の時間を進めていきたいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3チームに分かれて大縄跳びを実施。跳び方は8の字跳び、全員跳びから選択し、員跳びは跳んだ回数に人数を掛けた数を、8の字跳びは跳んだ回数をポイントとすること、引っ掛かったら0から数えなおすこと、60秒間で獲得したポイント数を競うことをルールとする。1回目、2回目の合計ポイントが多かった上位2チームで決勝戦を実施し、3位のチームは大きな声で応援する。

4. まとめ



・決勝進出をかけてみんなの取り組み意識が変わっていく様子が見て取れたと話し、次の座学の時間では宮下先生がオリンピックを目指す中で得たもの、学んだことを紹介すると予告。運動の時間はみんなの成長が見える1時間だったと伝え、お互いの健闘を拍手で称えて、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・宮下先生から改めて自己紹介をした後、座学の時間ではオリンピックとは何か、オリンピックとはどのような人かを知ってもらいたいと授業の目的を確認。
- ・北京大会のレース映像を見せながら競技や当時の心境について説明し、競技を始めてからオリンピックに出場するまでに宮下先生が体験したオリンピックバリューを紹介。

3. グループワーク



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけが感じる特別なものではなく、自分を高めてくれる言葉であり、皆の日常生活においても感じるができることと伝え、部活や習い事、普段の生活を振り返って、3つの言葉を感じたことを書き出してみようといかせる。
- ・試合で負けて悔しい気持ちを乗り越えて練習に活かしている、100mの記録更新に挑戦して最後の1本でクリアできた、同じポジションの子の技術やいい点を認めて真似をした（エクセレンス）、部活で失敗した時にチームメイトが励ましてくれた、友だちがアドバイスをくれた（フレンドシップ）、自分にはないものを持っている人を尊敬する、アドバイスをくれた先輩への感謝（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・皆が普段からオリンピックの価値を感じながら生活していることが理解できたと思う。オリンピックバリューを意識するのとしないのでは大きな違いが生まれる。後悔の無いように今日感じたことをこれからの生活に活かしてほしいと伝え、授業を終えた。



- 期 日 : 平成28年10月19日 (水)
- 場 所 : 富士吉田市立明見中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (29名)
- オリンピアン : 田中 和仁 先生 (体操)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・田中先生から自己紹介をした後、今日は田中先生がオリンピックに出場した経験や競技生活の経験を通して、オリンピックについて感じてもらいたいと授業の目的を確認し、準備体操に移る。

3. 主運動



・3チームに分かれて馬跳びを全3回実施 (70秒間)。途中で馬が倒れたり、跳んでいる人が転んだりしたら、0から数えなおすことをルールとする。
 ・各回終了後、回数を発表し、回数を増やすために作戦タイムを設ける。

4. まとめ



・クールダウンのストレッチを行った後、次の座学の時間でも引き続きオリンピックについて考えていくことを予告し、授業を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・田中先生の現役最後の試合となったリオデジャネイロ大会代表選考会種目別平行棒の演技映像を見せながら自己紹介と競技について説明。
- ・両親や兄弟とのエピソードを交えて、田中先生が競技生活の中で感じたオリンピックバリューを紹介。

3. グループワーク



- ・オリンピックバリューはオリンピックだから持っているものではなく、運動の時間に全力で取り組んだことや意見を出し合って工夫したこともオリンピックバリューに当てはまると話し、運動の時間に実践できていたバリューについて各班で考える。
- ・失敗しても最後まであきらめなくて跳べた、全力で取り組んだ（エクセレンス）、仲間を信じてチームが1つになった、仲間を思いやる、苦手な人のために馬を低くした（フレンドシップ）、お互いの意見を尊重した、チームメイトに感謝した（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・2020年には東京でオリンピックが開催される。運動部に所属していれば、選手として参加したいという思いをもつと思うが、それ以外にも、ボランティアで参加する、直接会場に行って応援する、テレビ観戦する様々な形で参加することが出来る。この授業をきっかけにオリンピックにより興味を持ってほしいと伝え、授業終了。

■ 集 合 写 真

2年2組



2年3組



■ 集合写真

2年1組



■ 記念品贈呈

■ 2年2組



■ 2年3組



■ 2年1組



■ 証明書贈呈

